

小林秀雄著『本居宣長』:五十章主題《上古の人々は、死の像(かたち)即ち『死⇒千引石(ちびきいわ)⇒生(とは:生と語りひ、死の心を親身に通はせる)』を、死の恐ろしさ(可畏き/よみの國)の直中から救ひ上げた》その「關係論」的纏め。

①#禽獸②#ことわざ(#事術)③#物④#遠い昔⑤#生死を觀ずる道⑥反省の事(わざ)⇒からの關係:⑦の考へによれば,[①よりも②しげく],[③の #あはれ をする]⑩は,④から,#ただ生きてゐる のに #甘んずる事が出來ず,⑤に踏みこんでゐた。(⇒後項へ)⇒⑦#宣長⑧#人間。
①#千引き石(#ちびきいわ)②#黄泉比良坂(よもつひらざか)③#生死⇒からの關係:(前項⇒),③について語らうとして,これ即ち[①を其の②に引き塞(さ)へて,其の石(①)を中に置きて,各(あ)ひ對(む)き立(た)たす]以上直かな表現を思ひ附く事は,⑤には出來ない相談であつた,と④⇒④#宣長⑤#物語の作者達。

①#よみの國②#悲しみ③#無心④意味合⇒からの關係:(前項⇒),[御國にて上古,ただ死ぬれば,①へ行物とのみ思ひて,かなしむより外の心なく]と⑦に言ふ時,②を離れなかつたのは,②に徹するといふ一種の③に秘められてゐる,汲み盡くし難い④だつた⇒⑦#宣長の念頭。
⑤#死⑥#悲しむ⑦#心の動揺(#喜怒哀楽)⑧#沈黙⇒からの關係:(前項⇒),⑤を嘆き⑥⑦は,やがて,#感慨の形(#あはれ/#あや)を取つて安定(#生死の安心)するのであらう。この間[#死 #悲⇒#觸れる⇒感慨(あはれ/あや)]の一種の⑧を見守る事を,③は想つてゐた(⇒後項へ)⇒③#宣長。
⑨#言葉(#答問録)⑩#死⑪#千引石(#ちびきいわ)⇒からの關係:(前項⇒),それ[沈黙を見守る]が,⑦への⑨の裏に,隠れてゐる。その [見守る沈黙]の内容とは,⑩は⑪に隔てられて,#再び還つては來ない。だが,⑪を中に置いてなら,④と語りひ,⑩の心を親身に通はせても來るものなのだ(⇒後項へ)⇒⑦#門人等⑧#生。
⑨#言葉(#答問録)⑩#死⑪#千引石⑫#死の像(#かたち)⑬#恐ろしさ(#可畏き)⇒からの關係:(前項⇒),⑤は,さういふ⑫『死⇒千引石(ちびきいわ)⇒生(とは:生と語りひ、死の心を親身に通はせる)』を,⑩の⑬(#よみの國)の直中から救ひ上げた。(⇒後項へ)⇒⑤#上古の人々。
②#悲しみ⑩#死⑫#死の像(#かたち)⇒からの關係:(前項⇒),⑩の測り知れぬ②に浸りながら誰の手も借りず,と言つて自力を頼むといふやうな事も更になく,#おのづから(#自然に)見えて來るやうに,その揺がぬ⑫[とは:死⇒千引石⇒生]を創りだした(⇒後項へ)⇒⑤#無名作家達。
⑫#死の像⑭意味合⑮彼の世⑯此の世⑰生の意味⑱#神代の始めの趣⑲#想像力の源泉⇒からの關係:(前項⇒),其處に含蓄された⑭は,汲み盡くし難いが,見定められた⑮の⑫[とは:死⇒千引石⇒生]は,⑯の⑰を照し出す様に見える。⑮によれば,其處に⑱を物語る⑲の⑲があつた⇒⑩#宣長の洞察⑲#無名作家達。

(物:場 C')...

①#禽獸②#ことわざ(#事術)③#物④#遠い昔⑤#生死を觀ずる道⑥反省の事(わざ)。
①#千引き石(#ちびきいわ)②#黄泉比良坂(よもつひらざか)③#生死。
①#よみの國②#悲しみ③#無心④意味合。
⑤#死⑥#悲しむ⑦#心の動揺(#喜怒哀楽)⑧#沈黙。
⑨#言葉(#答問録)⑩#死⑪#千引石(#ちびきいわ)。
⑨#言葉(#答問録)⑩#死⑪#千引石⑫#死の像(#かたち)⑬#恐ろしさ(#可畏き)
②#悲しみ⑩#死⑫#死の像(#かたち)。
⑫#死の像⑭意味合⑮彼の世⑯此の世⑰生の意味⑱#神代の始めの趣⑲#想像力の源泉

(△粹):

⑦#宣長⑧#人間/④#宣長⑤#物語の作者達
/⑦#門人等⑧#宣長の念頭/③#宣長/⑦#門人等⑧#生/⑤#上古の人々/⑤#無名作家達/
⑩#宣長の洞察⑲#無名作家達。

からの關係(D1の至大化)

*「⑦の考へによれば,[①よりも②しげく],[③の #あはれ をする]⑩は,④から,#ただ生きてゐる のに #甘んずる事が出來ず,⑤に踏みこんでゐた。(⇒後項へ)。
*「:(前項⇒),③について語らうとして,これ即ち[①を其の②に引き塞(さ)へて,其の石(①)を中に置きて,各(あ)ひ對(む)き立(た)たす]以上直かな表現を思ひ附く事は,⑤には出來ない相談であつた,と④」。
*「:[御國にて上古,ただ死ぬれば,①へ行物とのみ思ひて,かなしむより外の心なく]と⑦に言ふ時,②を離れなかつたのは,②に徹するといふ一種の③に秘められてゐる,汲み盡くし難い④だつた」。

:(前項⇒),⑤を嘆き⑥⑦は,やがて,#感慨の形(#あはれ/#あや)を取つて安定(#生死の安心)するのであらう。この間[#死 #悲⇒#觸れる⇒感慨(あはれ/あや)]の一種の⑧を見守る事を,③は想つてゐた(⇒後項へ)。
*「:(前項⇒),それ[沈黙を見守る]が,⑦への⑨の裏に,隠れてゐる。その [見守る沈黙]の内容とは,⑩は⑪に隔てられて,#再び還つては來ない。だが,⑪を中に置いてなら,④と語りひ,⑩の心を親身に通はせても來るものなのだ(⇒後項へ)」。
*「:(前項⇒),⑤は,さういふ⑫『死⇒千引石(ちびきいわ)⇒生(とは:生と語りひ、死の心を親身に通はせる)』を,⑩の⑬(#よみの國)の直中から #救ひ上げた。(⇒後項へ)」。 以下省略。